

緊急度判定を用いた症候別インタビュー及びフローチャート

目次

1. 窒息
2. 外傷
3. 腹痛
4. 腰痛・背部痛
5. 胸痛
6. 動悸・不整脈
7. 呼吸困難
8. めまい
9. 頭痛
10. けいれん
11. 麻痺
12. 消化管出血・性器出血
13. 鼻出血
14. 熱傷
15. 熱中症
16. 薬物中毒
- ※ 指趾切断

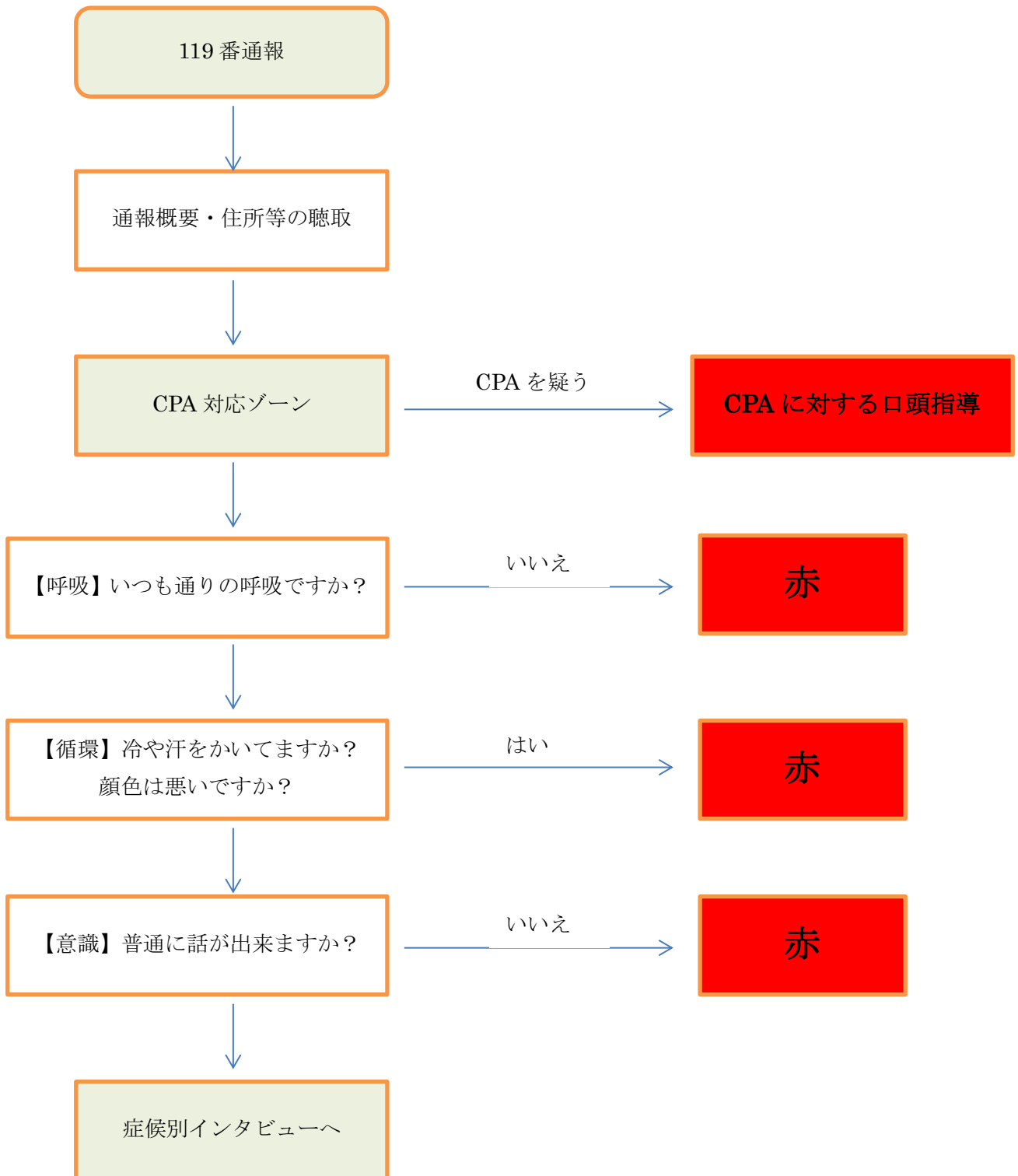
★症候別インタビューの利用手順

- ・119番通報緊急度は赤、黄、緑の3段階に分類
- ・通報内容からCPAの有無を確認

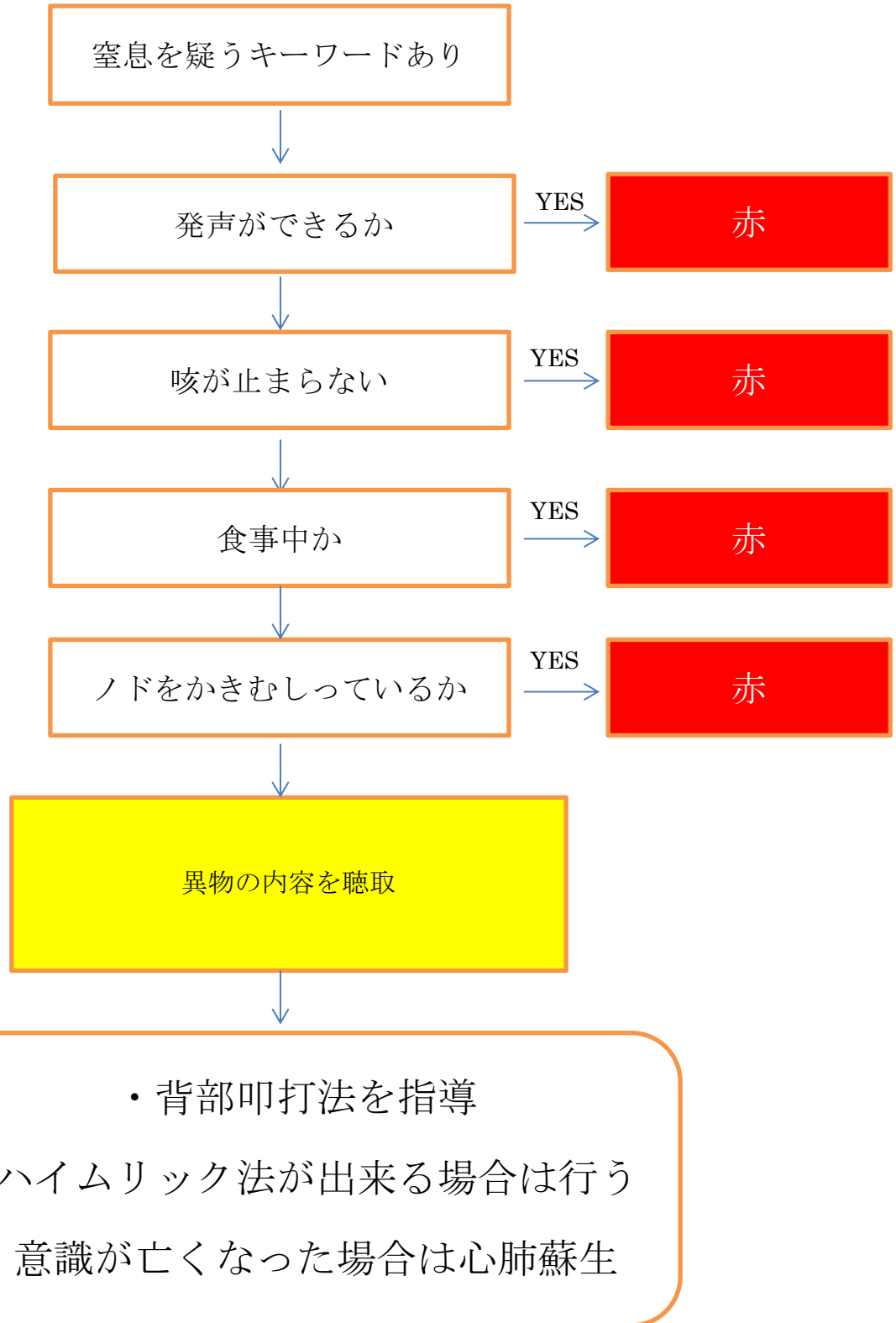
覚知から3分間の口頭指導手順に従い、CPAゾーンP1～P3の口頭指導を行う。

(※平成27年度救急振興財団調査研究助成事業「通信指令の機能強化—効果的な口頭指導の研究」参照)

- ・非CPAと判断した後に症候別インタビューを開始する
 - (1) 通報内容から、症候別キーワードを確認する
 - (2) 緊急度判定に必要な内容を聴取し、口頭指導を行う



1. 窒息



【キーワードになる聴取内容】

- ・ 食事中。
- ・ ノドを詰まらせた。ひっかかった。
- ・ 飲み込んだ。
- ・ 声が出ない。
- ・ ずっと咳き込んでいる。
- ・ ノドをおさえている。

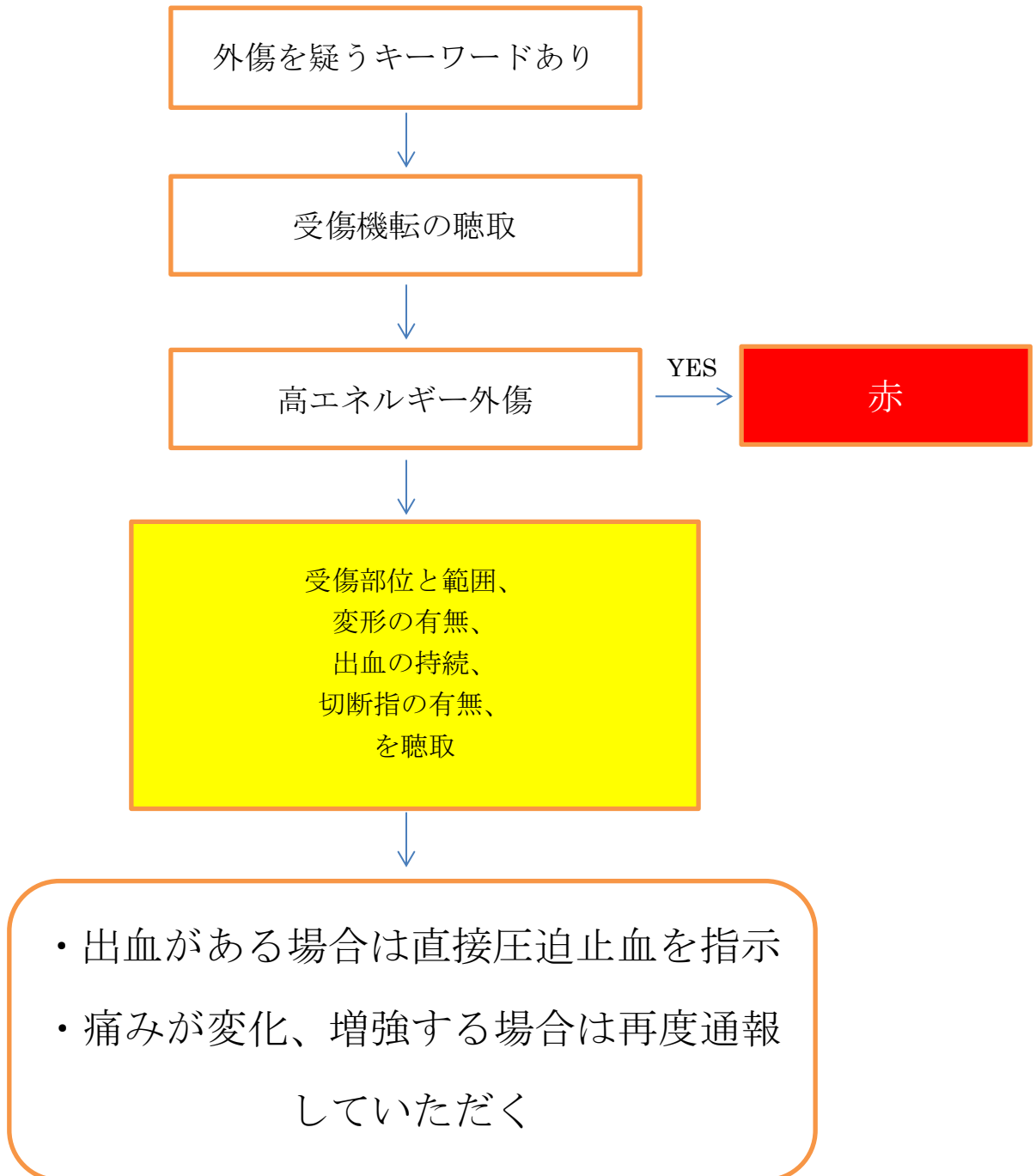
【聴取すべき内容】

- ・ 意識の有無
- ・ 発症時間
- ・ 異物の内容
- ・ (施設であれば) 吸引が可能かどうか

【口頭指導】

- ・ 意識が無くなれば胸骨圧迫へ移行するため、意識の確認を繰り返し行う。
- ・ 施設であれば口腔内吸引を指示する。
- ・ 自力で咳が出来る場合はさせる。
- ・ 背部叩打法、ハイムリック法、胸骨圧迫の中から、通報者の技術などを加味し状況に適した方法で指導する。
→ 消防庁の5つのプロトコル（気道異物除去法）に従う。

2. 外傷



【キーワードになる聴取内容】

- ・交通事故にあった。
- ・切った。
- ・打った。
- ・刺さった。
- ・転落した。墜落した。
- ・転倒した。
- ・挟まれた。
- ・道に倒れている。

【聴取すべき内容】

- ・傷病者の数
- ・受傷部位と範囲
- ・受傷機転
- ・変形の有無
- ・活動性の出血の有無
- ・頭頸部・体幹部の鋭的外傷
- ・四肢切断 → 指趾切断のフローチャートへ

- ・高エネルギー外傷であるか

※3m以上の高さからの転落、墜落

自動車の横転事故、車外放出

救出に時間を要する事故

歩行者、自転車、二輪車と自動車との事故

自動二輪者の事故

鉄道車両との接触事故

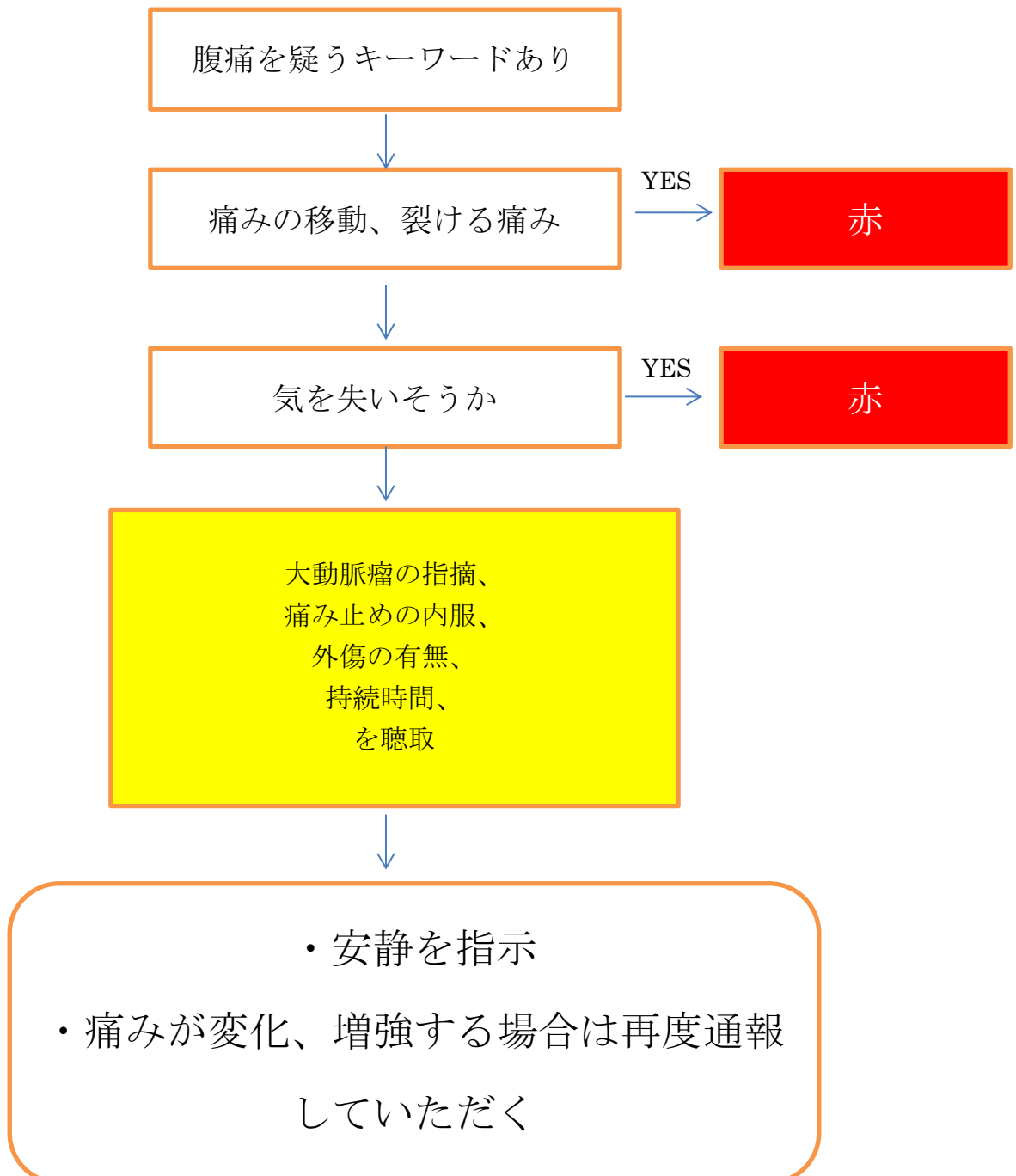
機械に巻き込まれた

重量物に下敷きになった

【口頭指導】

- ・活動性の出血がある場合は、消防庁の5つのプロトコル（止血術）に従う。
- ・県内外傷病者数、救出状況に応じて、応援の要請や現場への医師要請を行う。
- ・受傷部位、状況に応じて、適切な搬送医療機関を選定する。

3. 腹痛



【キーワードになる聴取内容】

- ・お腹が痛い。
- ・お腹が張る。
- ・胃が痛い。
- ・ムカムカする。
- ・ゲップが出る。
- ・ガスが出ない。
- ・便が出ない。

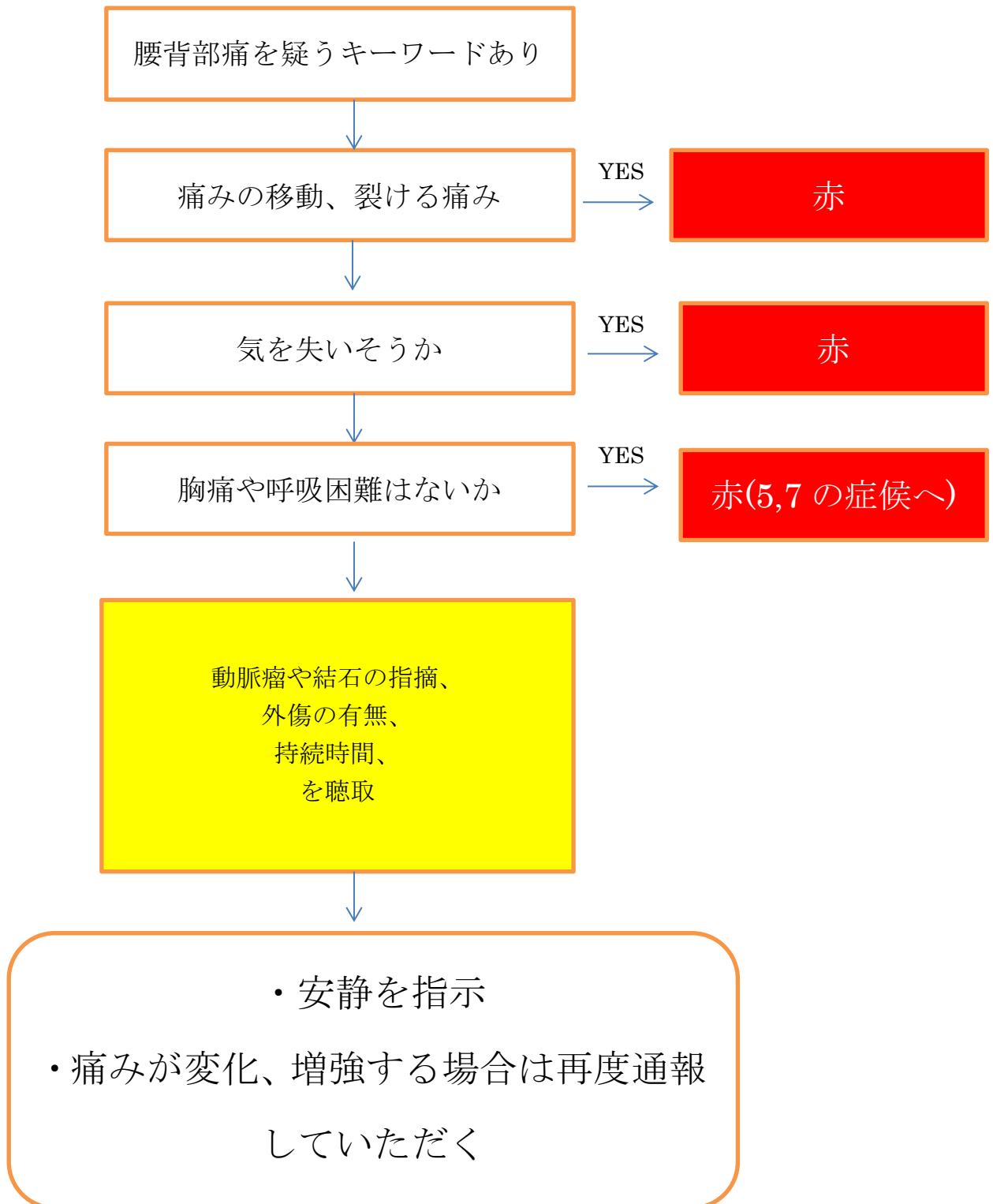
【聴取すべき内容】

- ・疼痛の部位
- ・疼痛の性状
- ・疼痛の持続時間
- ・発症様式(突然発症か)
- ・既往歴、腹部手術歴
- ・妊娠歴
- ・外傷の有無

【口頭指導】

- ・安静を指示する。
- ・電話を一旦切る際も疼痛が増強する場合は再度通報して頂く。

4. 腰痛・背部痛



【キーワードになる聴取内容】

- ・背中が痛い。
- ・腰が痛い。

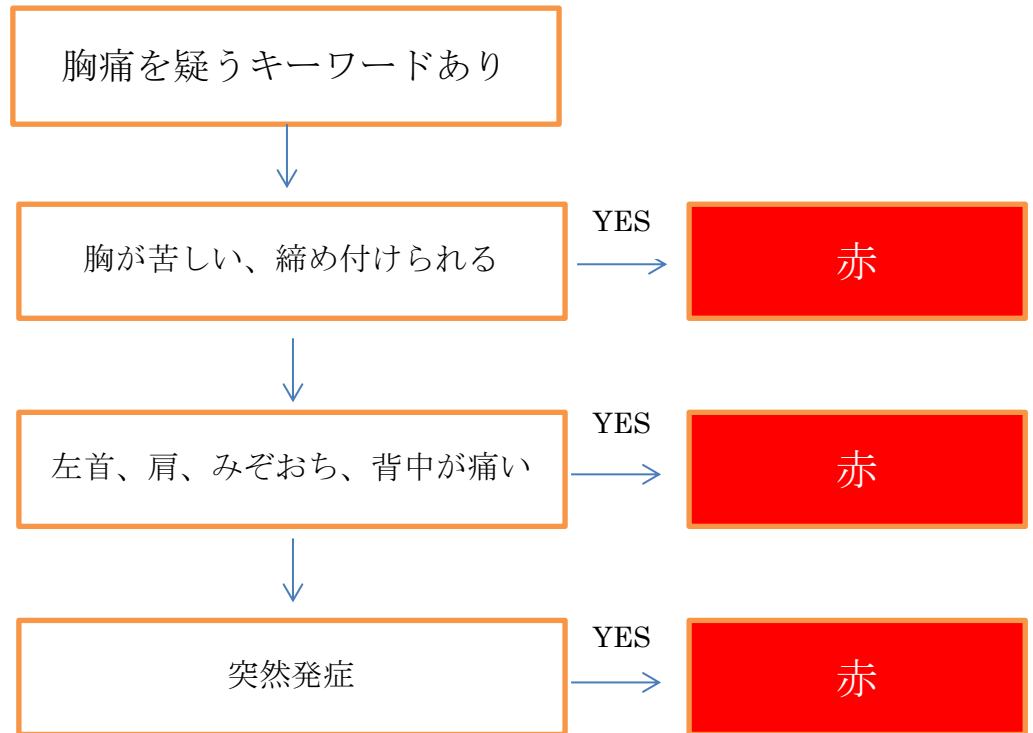
【聴取すべき内容】

- ・疼痛の部位
- ・疼痛の性状
- ・疼痛の持続時間
- ・発症様式(突然発症か)
- ・既往歴(動脈瘤や尿路結石など)
- ・外傷の有無

【口頭指導】

- ・安静を指示する。
- ・電話を一旦切る際も疼痛が増強する場合は再度通報して頂く。

5. 胸痛



心臓病の既往、
長時間同姿勢の有無、
を聴取

- ・ 安静を指示
- ・ 嘔吐時は側臥位を指示
- ・ 痛みが変化する場合は再度通報していただく

【キーワードになる聴取内容】

- ・胸が痛い。
- ・みぞおちが痛い。
- ・胸が締め付けられる。
- ・胸の辺りが重苦しい。
- ・息が苦しい。
- ・顎が痛い。肩が痛い。
- ・背中が痛い。
- ・寝ると苦しい。

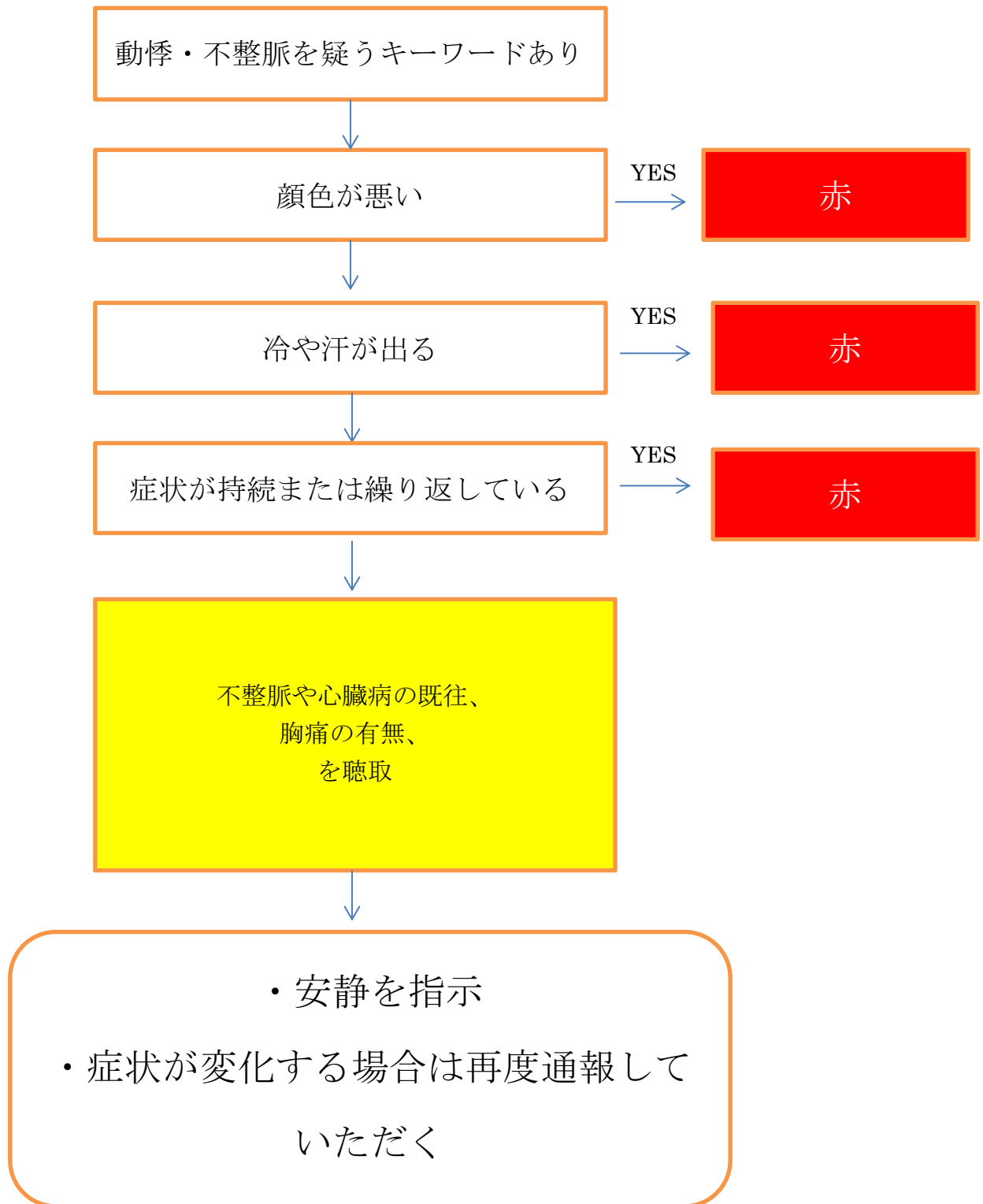
【聴取すべき内容】

- ・疼痛の部位
- ・疼痛の性状
- ・疼痛の持続時間
- ・発症様式(突然発症か)
- ・既往歴
- ・外傷の有無

【口頭指導】

- ・安静を指示する。
- ・嘔吐する場合は側臥位にさせる。
- ・電話を一旦切る際も疼痛が増強する場合は再度通報して頂く。

6. 動悸・不整脈



【キーワードになる聴取内容】

- ・ドキドキする。
- ・脈が飛ぶ。
- ・脈が速い。
- ・動悸がする。
- ・意識が遠のく。ボーっとしている。
- ・顔色が悪い。
- ・冷や汗が出る。
- ・胸が苦しい。

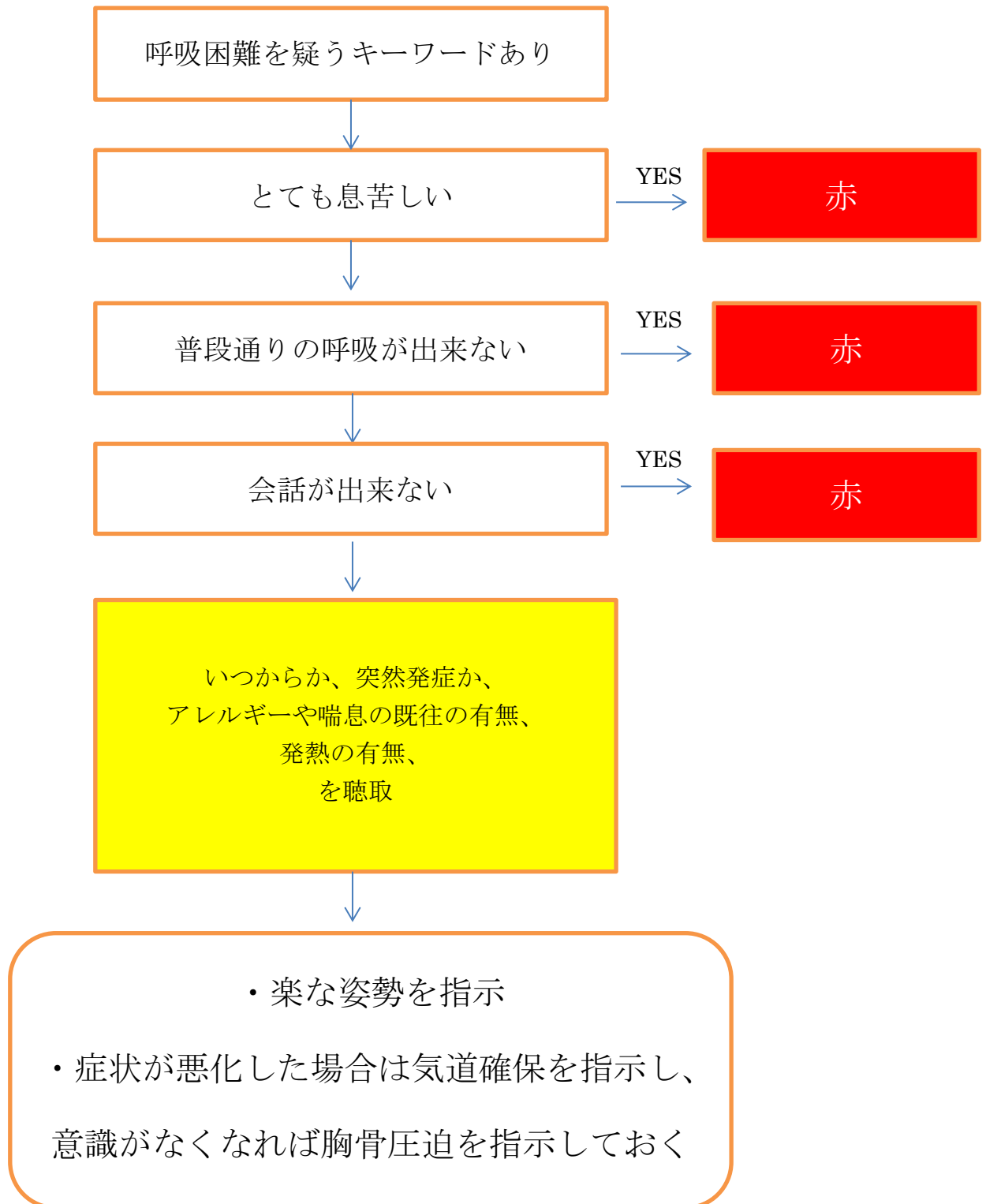
【聴取すべき内容】

- ・発症時期
- ・発症様式(突然発症か)
- ・持続時間
- ・胸痛の有無
- ・既往歴
- ・ペースメーカーの有無
- ・嘔気の有無

【口頭指導】

- ・安静を指示する。
- ・嘔吐する場合は側臥位にする。
- ・電話を一旦切る際も症状が増悪する場合は再度通報して頂く。
- ・意識の変化を十分に観察させ、反応がなくなるほど意識が悪くなれば胸骨圧迫に移行する説明をしておく。

7. 呼吸困難



【キーワードになる聴取内容】

- ・息が苦しい。
- ・息が荒い。
- ・過呼吸になっている。
- ・（施設から）酸素飽和度が低い。
- ・ゼーゼーしている。
- ・会話が出来ない。
- ・息が吐けない。
- ・呼吸の時に変な音が聞こえる。

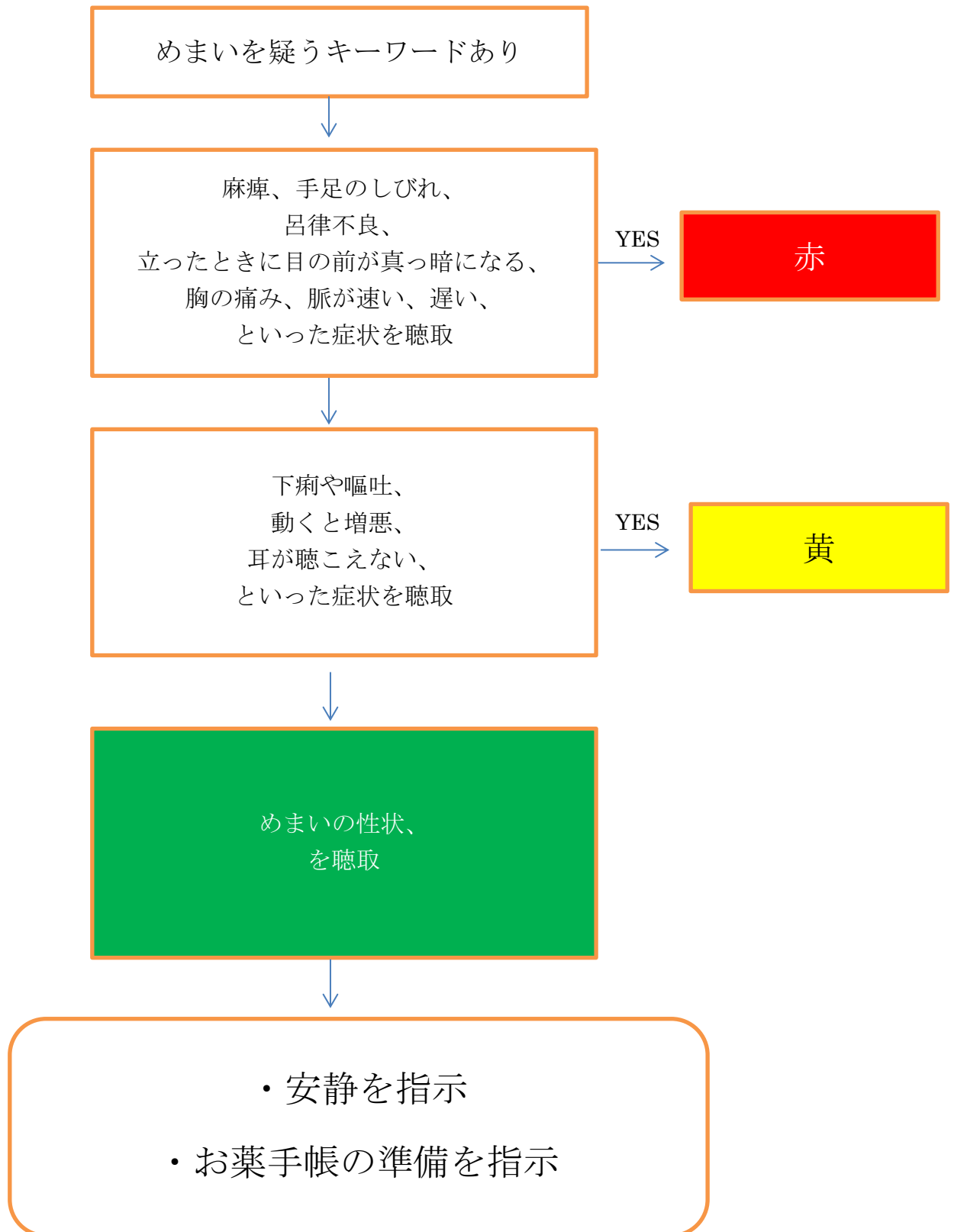
【聴取すべき内容】

- ・アレルギーの有無
- ・発症時期
- ・発症様式(突然発症か)
- ・既往歴(肺炎、喘息、COPD など)
- ・発熱の有無
- ・気道異物を疑う病歴の有無

【口頭指導】

- ・まずは気道確保を行う。
- ・最も楽な体位にする。
- ・電話を一旦切る際も意識や状態に変化がある場合は再度通報して頂く。
- ・気道異物の際は消防庁の5つのプロトコル（気道異物除去法）に従う。

8. めまい



【キーワードになる聴取内容】

- ・ (天井が) グルグル回る。
- ・ 身体がフラフラする。フワフワする。
- ・ 目が回る。

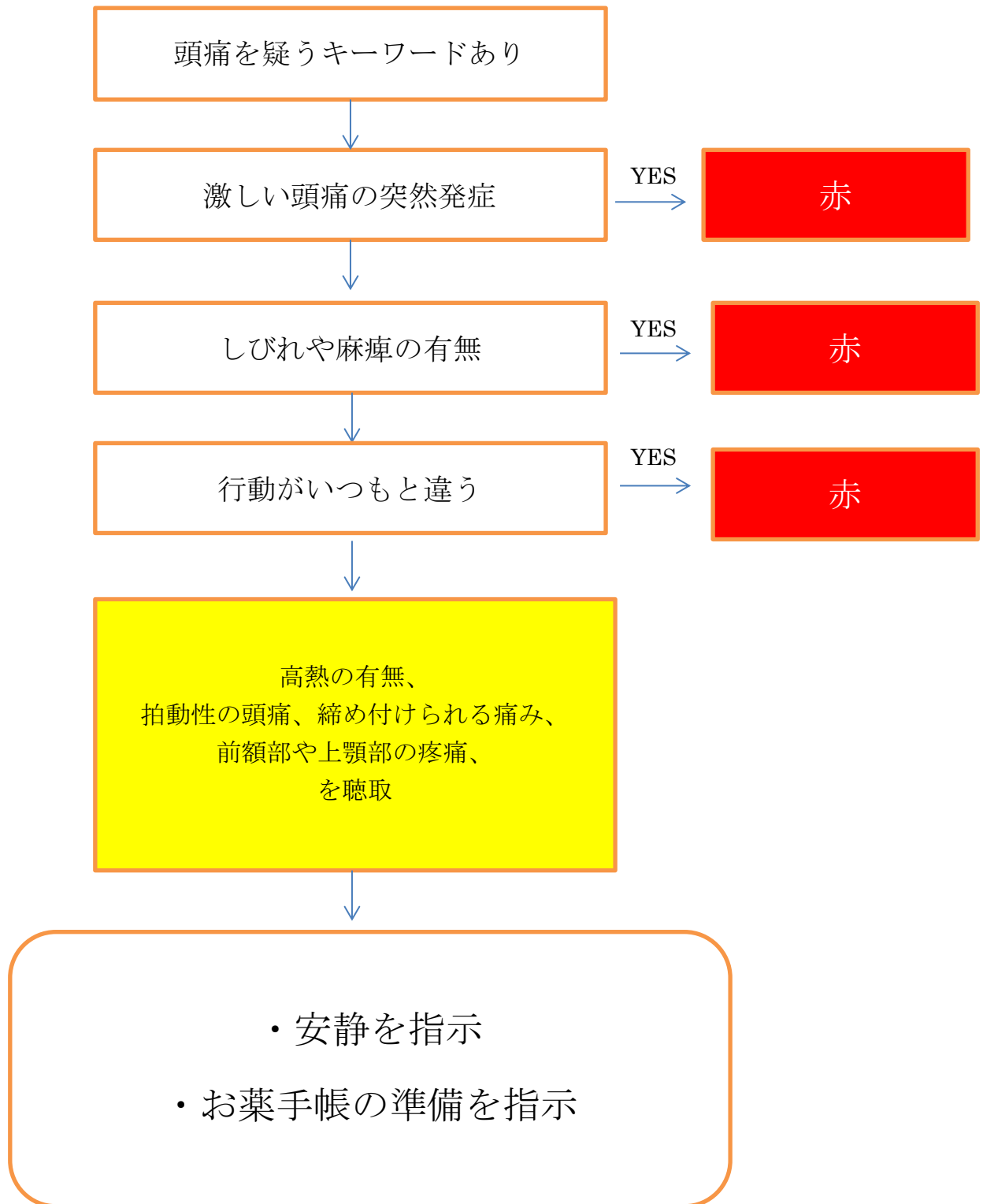
【聴取すべき内容】

- ・ めまいの性状
- ・ 発症時期
- ・ 発症様式(突然発症か)
- ・ 持続時間
- ・ 増悪因子(体動など)
- ・ 既往歴
- ・ 内服歴

【口頭指導】

- ・ 安静を指示する。
- ・ お薬手帳を準備して頂く。

9. 頭痛



【キーワードになる聴取内容】

- ・頭が痛い。
- ・後頭部が痛い。
- ・首が痛い。
- ・突然倒れた。

【聴取すべき内容】

- ・発症時期
- ・発症様式(突然発症か)
- ・疼痛の性状(程度や部位、拍動性など)
- ・発熱の有無
- ・麻痺やしびれ、呂律不良などの脳卒中を疑う症状の有無

【口頭指導】

- ・最も楽な体位にする。
- ・嘔吐する場合は側臥位にさせる。
- ・電話を一旦切る際も意識や状態に変化がある場合は再度通報して頂く。

10. けいれん

けいれんを疑うキーワードあり

↓ 成人

↓ 小児

赤

← YES

妊娠しているか

初めての症状か

YES →

赤

赤

← YES

持続しているか

持続しているか

YES →

赤

赤

← YES

糖尿病の既往はあるか

繰り返しているか

YES →

赤

てんかんや脳卒中の既往、
暑熱環境、
過換気の有無、
を聴取

年齢、
発熱の有無、
持続時間の有無、
を聴取

- ・ 傷病者の観察を指示
- ・ 嘔吐時は側臥位を指示

【キーワードになる聴取内容】

- ・けいれんしている。
- ・震えている。
- ・白目をむいている。
- ・泡を吹いている。
- ・ピクピクしている。
- ・呼びかけに反応がない。
- ・ひきつけを起こしている。

【聴取すべき内容】

- ・てんかんの既往
- ・脳卒中の既往
- ・外傷の有無
- ・暑熱環境にあるか
- ・熱発の有無
- ・過呼吸の有無

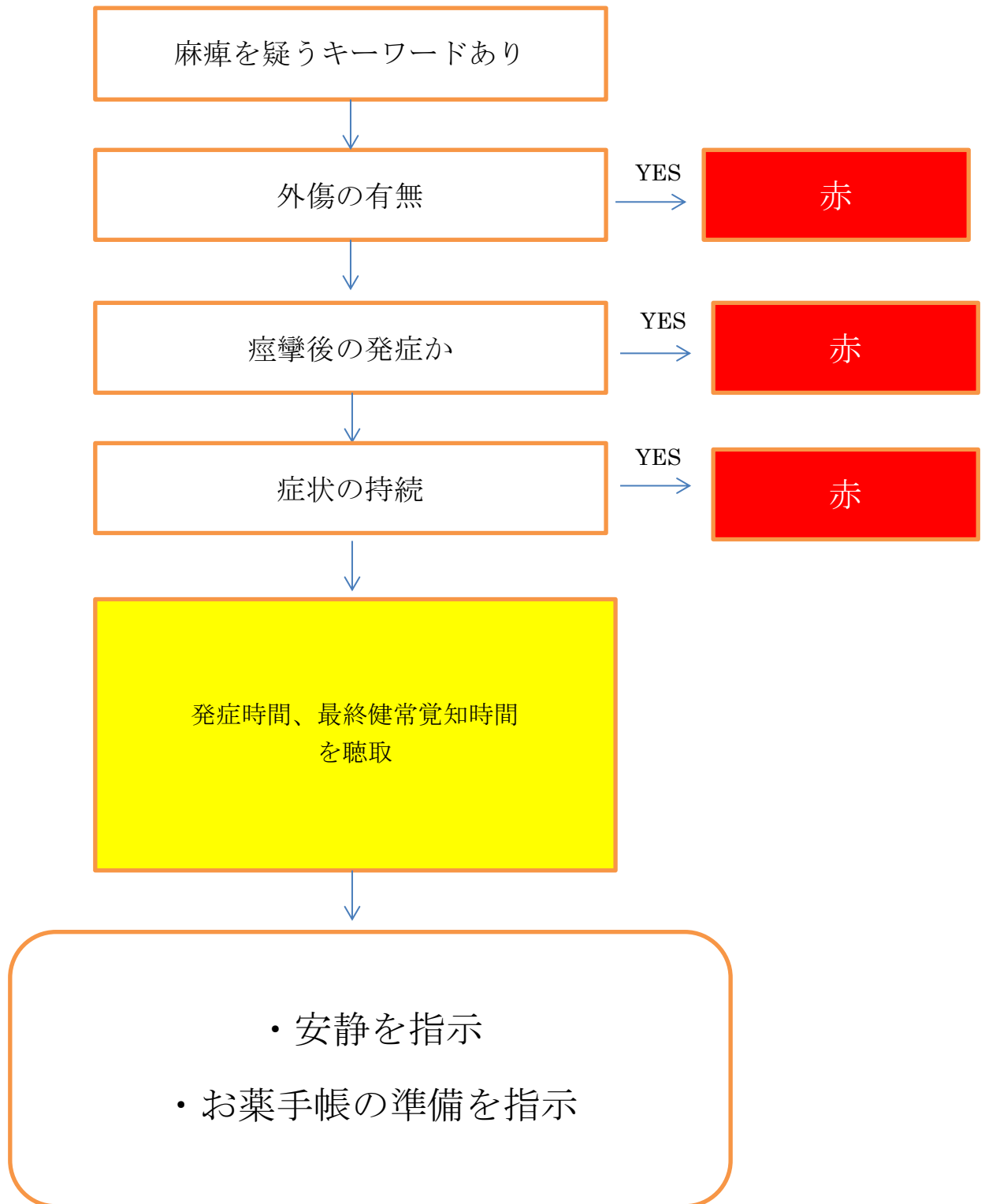
(小児の場合)

- ・年齢
- ・初めてのけいれんか

【口頭指導】

- ・嘔吐する場合は顔を横に向けさせる。
- ・痙攣の持続時間や様子を観察して頂くよう指示する。

1 1 . 麻痺



【キーワードになる聴取内容】

- ・手や足が動かない、動きにくい。
- ・歩けない。
- ・右か左に傾く。
- ・しゃべりにくい。
- ・手や足がしびれる。
- ・顔がしびれる。
- ・食べ物が口からこぼれる。

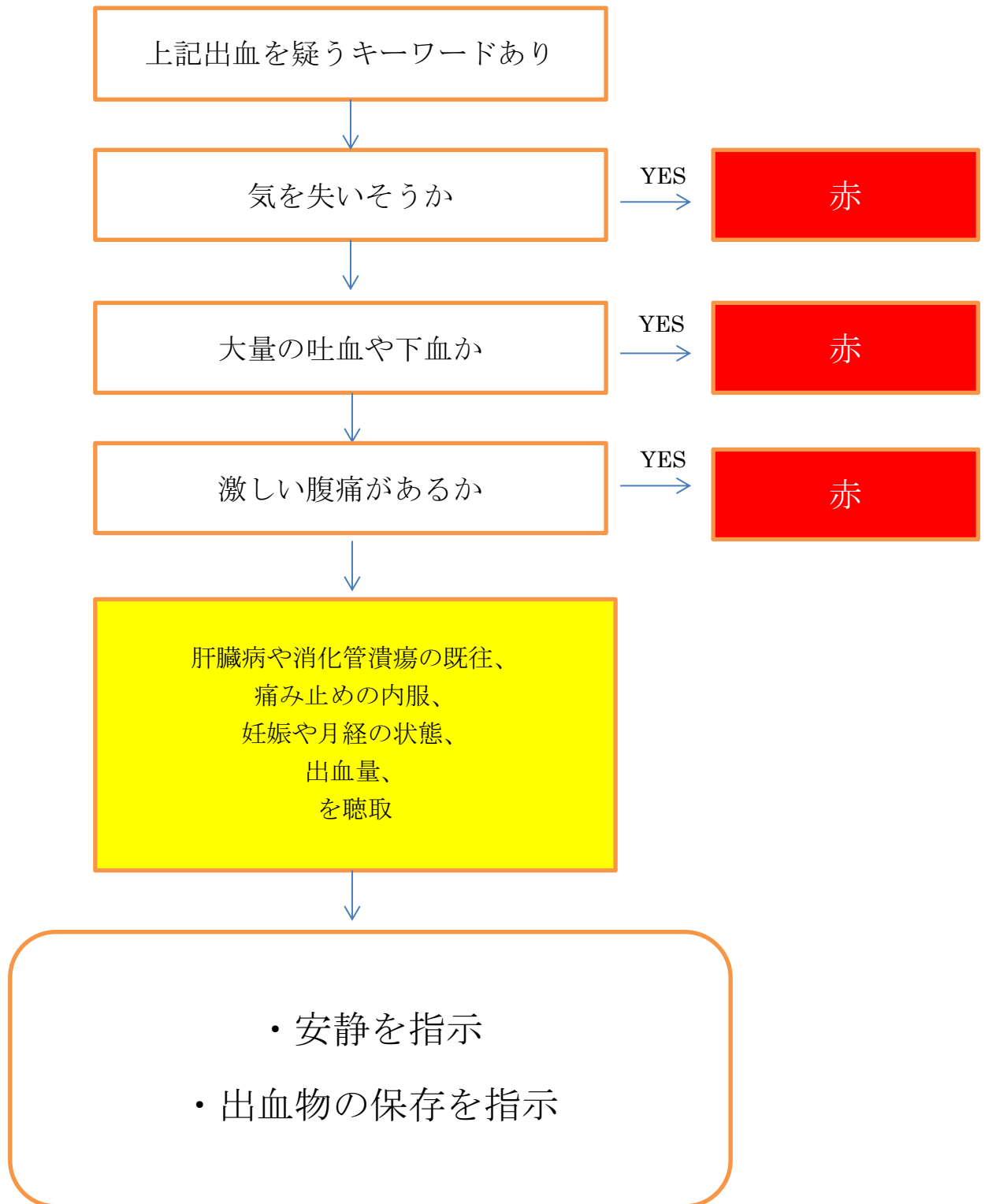
【聴取すべき内容】

- ・発症時間、または最終健常覚知時間
- ・症状が持続しているか
- ・外傷の有無
- ・意識障害の有無
- ・感覚障害の有無
- ・構音障害の有無

【口頭指導】

- ・安静を指示する。
- ・電話を一旦切る際も意識障害が進行する場合は再度通報して頂く。

1 2. 消化管出血・性器出血



【キーワードになる聴取内容】

- ・ 県内外血を吐いた。
- ・ 痰に血が混じる。
- ・ お尻から血が出た。
- ・ 便に血が混ざる。
- ・ 便器が真っ赤になった。
- ・ 血尿が出た。

【聴取すべき内容】

- ・ どれくらいの量か(身近なもので表現して頂く)
- ・ 腹痛の有無
- ・ 嘔気や腹痛などの症状は持続しているか
- ・ 既往歴(肝臓病、食道静脈瘤、胃・十二指腸潰瘍など)
- ・ 内服歴(抗凝固薬、鎮痛薬)

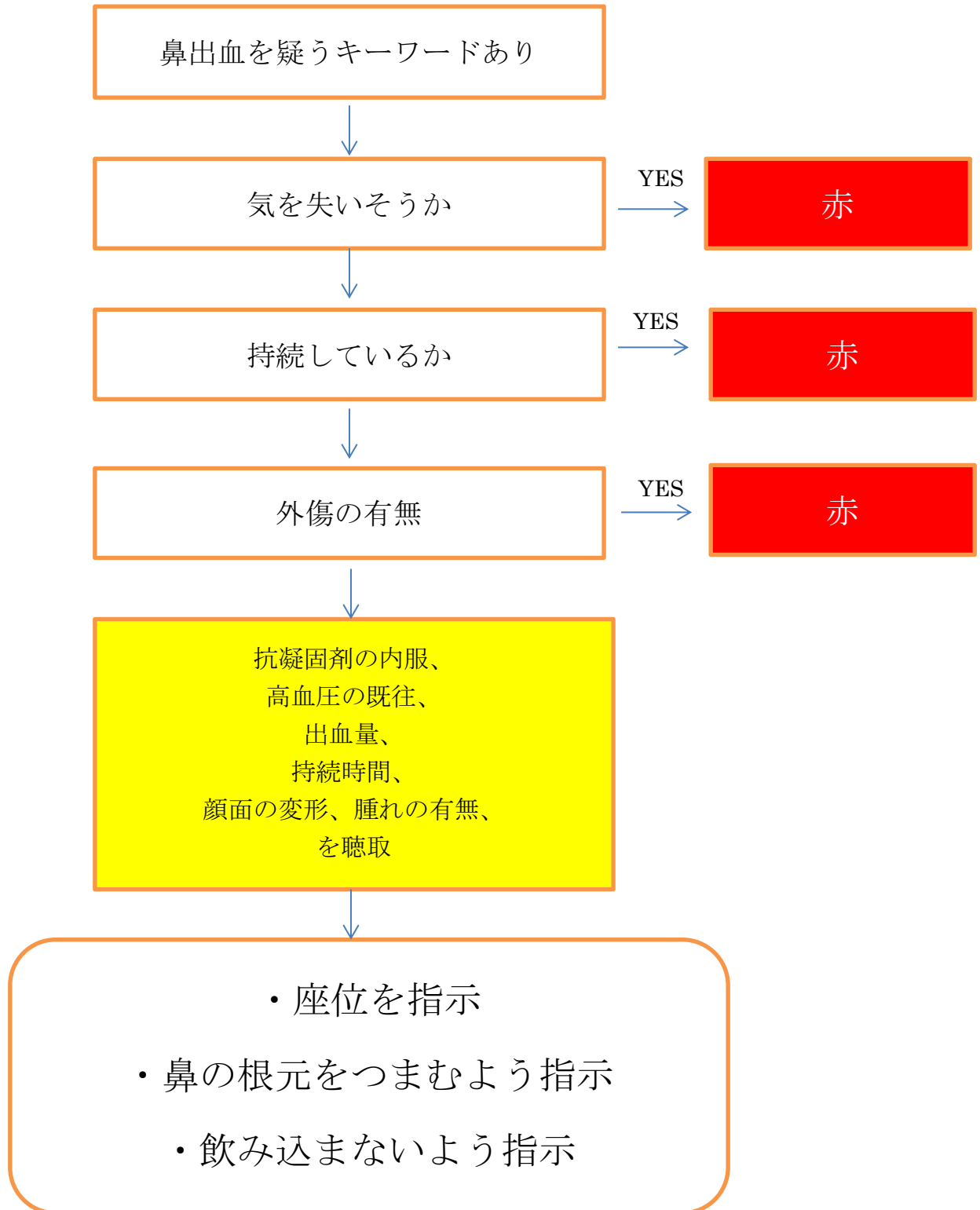
(女性の場合)

- ・ 生理中か、生理は不順か

【口頭指導】

- ・ 吐物・下血したものは保存するよう指示する。
- ・ 安静を指示する。
- ・ 電話を一旦切る際も意識が悪化する場合は再度通報して頂く。

1 3. 鼻出血



【キーワードになる聴取内容】

- ・鼻血が出た。
- ・痰に血が混ざる。

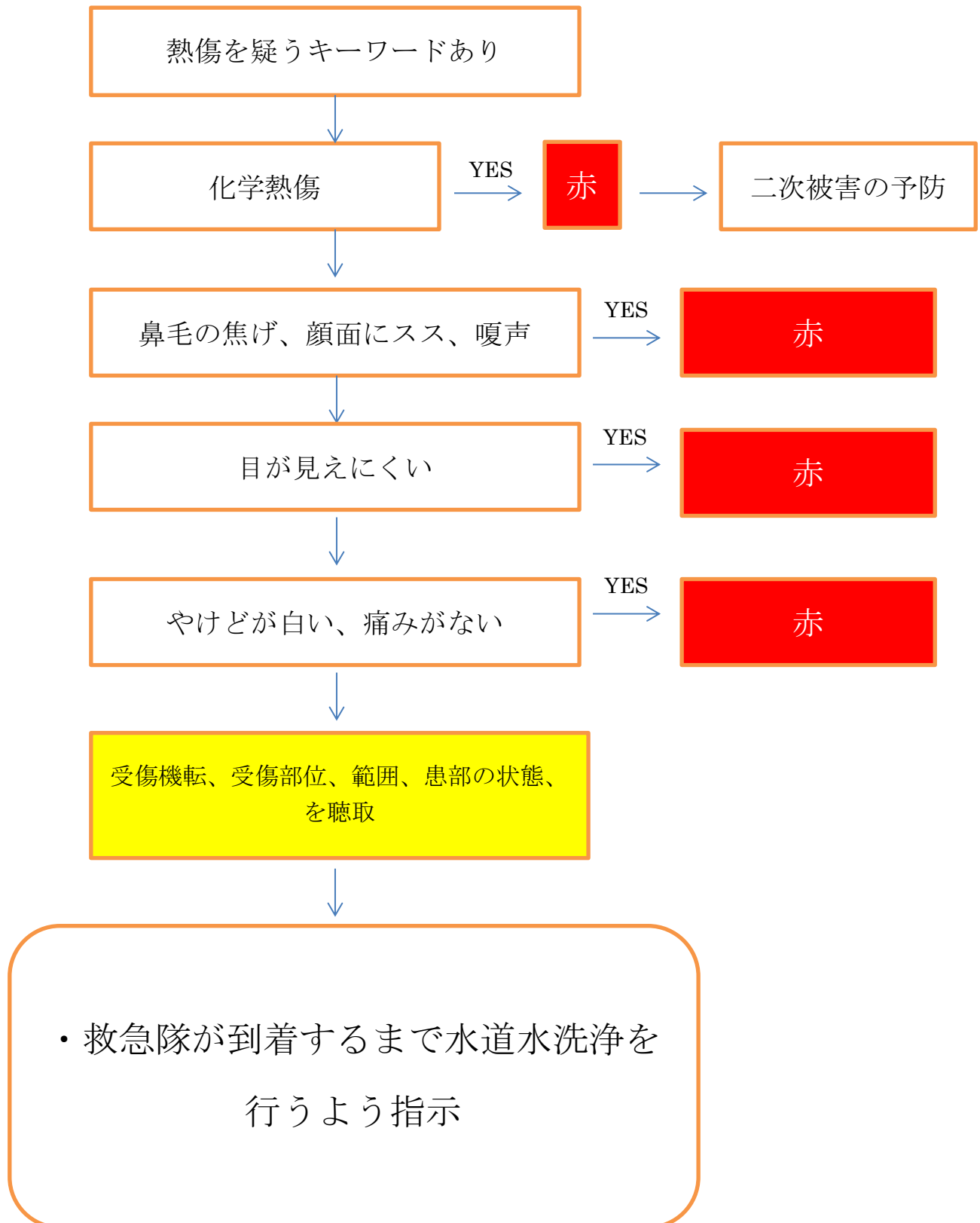
【聴取すべき内容】

- ・他に症状はないか(気分不良、気が遠のく感じがないかなど)
- ・外傷の有無
- ・内服歴(抗凝固薬や抗血小板薬など)

【口頭指導】

- ・座っていただく。
- ・鼻をつまむように上から圧迫させる。
- ・喉に流れてきても飲み込まないで吐き出すよう指示する。
- ・気分が悪くなる場合は横にさせる。

14. 熱傷



【キーワードになる聴取内容】

- ・ 火事にあった。
- ・ やけどをした。
- ・ 服が燃えた。
- ・ 熱湯がかかった。
- ・ 薬品がかかった。
- ・ 皮膚がただれた。
- ・ ススを吸った。

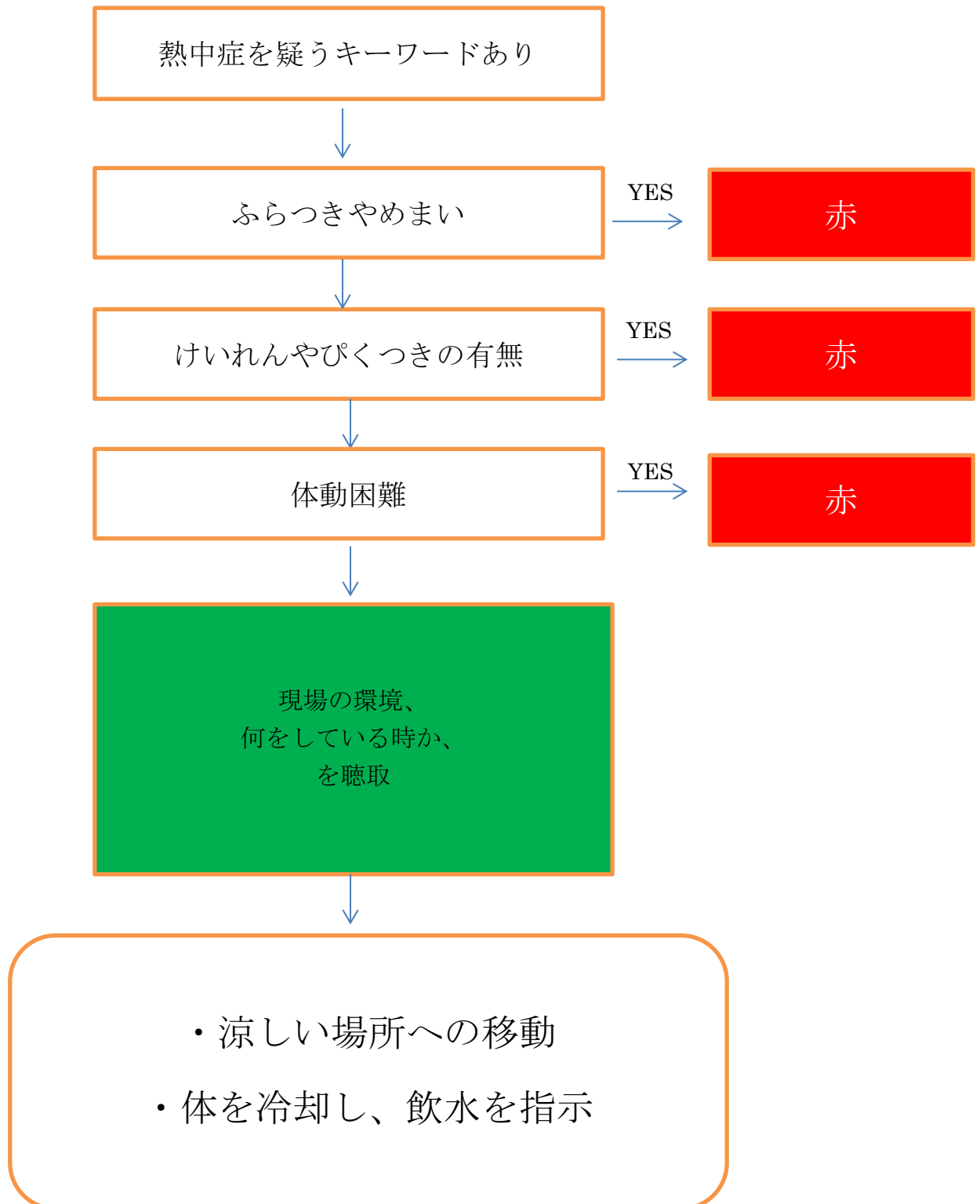
【聴取すべき内容】

- ・ 意識障害の有無
- ・ 化学薬品の暴露
- ・ 受傷範囲と大きさ(手のひらいくつ分)
- ・ 受傷部位の色
- ・ 顔にススがついていたり、鼻毛が焦げていたり、声が枯れていないか。
- ・ 目の見え方に異常はないか。

【口頭指導】

- ・ 周囲の安全を徹底する。
- ・ 化学薬品の場合、周囲の人が直接触れないよう指導する。
- ・ 救急隊が到着するまで常温の水道水で患部を流し続ける。
- ・ 水ぶくれは破らないよう指導する。

15. 熱中症



【キーワードになる聴取内容】

- ・外で作業をしていた。
- ・閉めきった室内で作業をしていた。
- ・運動をしていた。

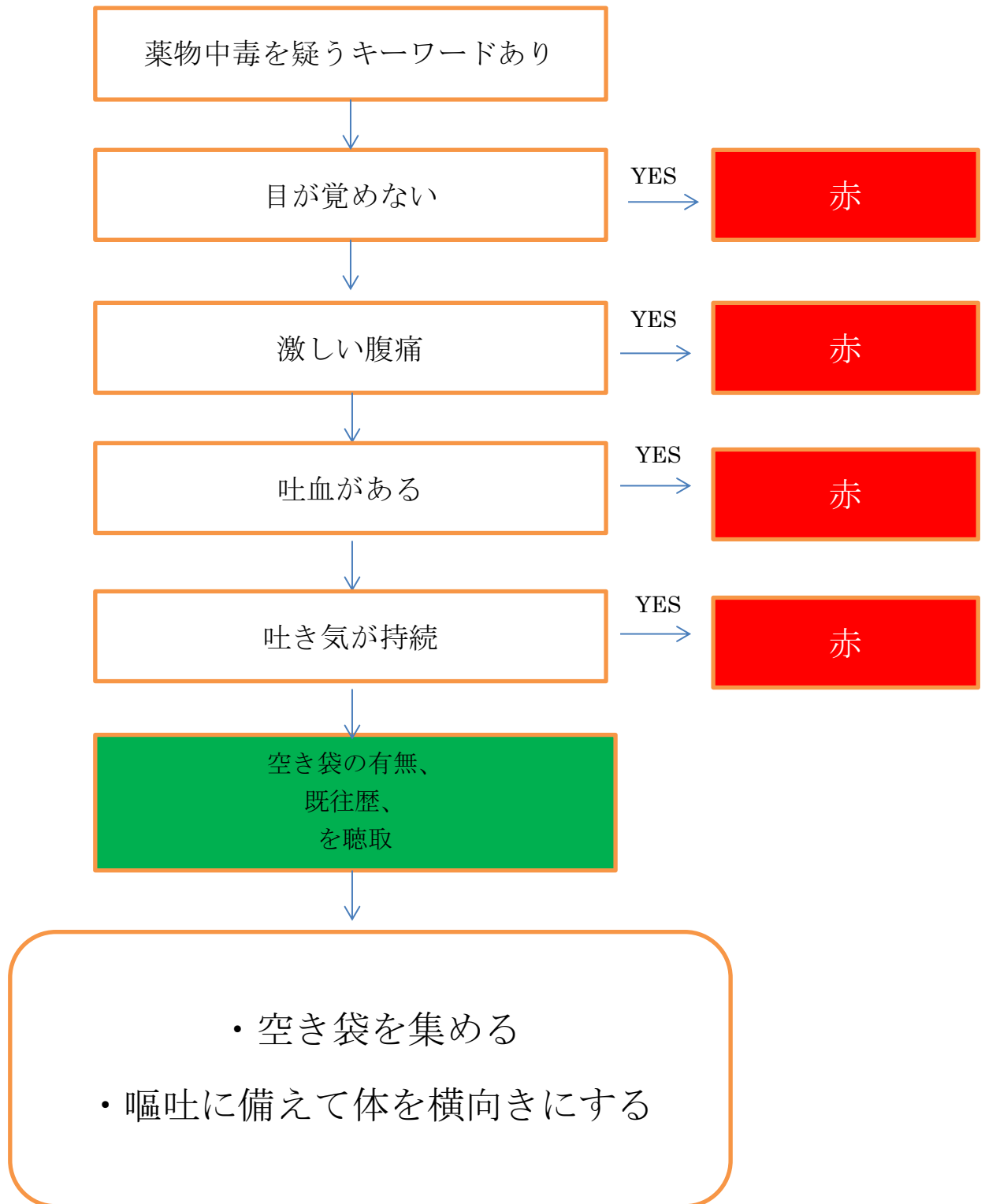
【聴取すべき内容】

- ・現場はどのような状況(温度、屋内外など)か
- ・水分摂取の状況
- ・既往歴
- ・内服歴

【口頭指導】

- ・涼しい場所へ移動させる、またはエアコンや扇風機を使用する。
- ・可能であれば水分を摂取させる。
- ・安静を指示する。
- ・電話を一旦切る際も痙攣が出現したり意識が悪化したりする場合は再度通報して頂く。

16. 薬物中毒



【キーワードになる聴取内容】

- ・薬をたくさん飲んだ。
- ・ボーっとしている。
- ・死にたい、死んでやるという連絡が来た。

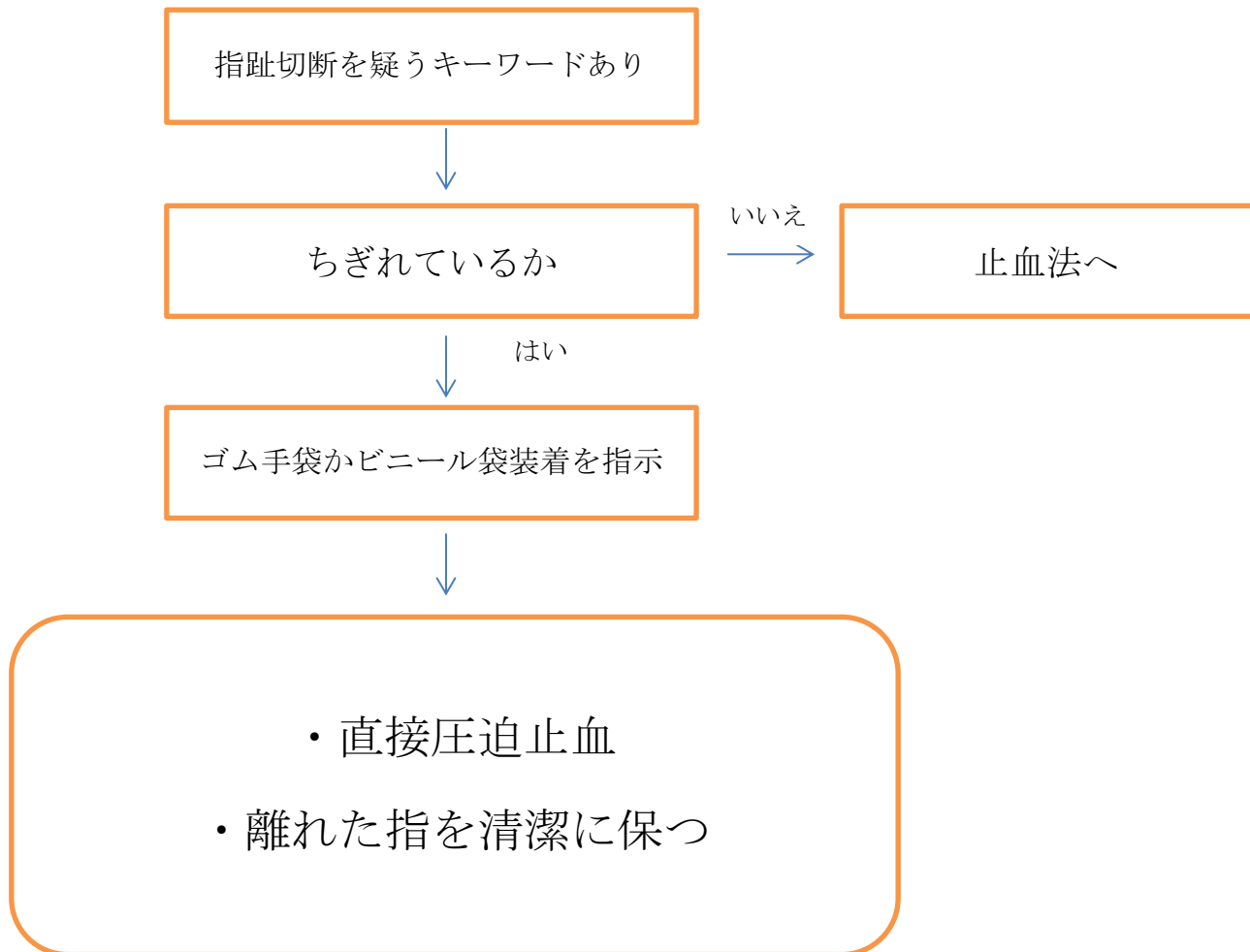
【聴取すべき内容】

- ・意識障害の有無と程度
- ・吐血や腹痛の有無
- ・過去に同じようなことがあったか
- ・精神的に不安定となる出来事はなかったか
- ・精神科の受診歴

【口頭指導】

- ・くすりの空き袋を集めて頂き、ごみ箱の中にもくすりの空き袋ないか確認するよう指示する。
- ・お薬手帳を準備して頂く。
- ・嘔気や意識障害があれば側臥位を指示する。

※指趾切断



【キーワードになる聴取内容】

- ・機械に巻き込まれた。
- ・指を切った。
- ・指がちぎれた。

【聴取すべき内容】

- ・完全切断かどうか、切断したものは残っているか
- ・どういった物で受傷したか(清潔かどうか)
- ・既往歴
- ・内服歴

【口頭指導】

- ・他者が止血や切断指を扱う場合は感染防護(手袋やビニール袋の装着)をさせる。
 - ・きれいなガーゼやタオルで圧迫止血を行うよう指示する。
 - ・切断指を清潔に保存させる。
- 氷があれば準備させる。